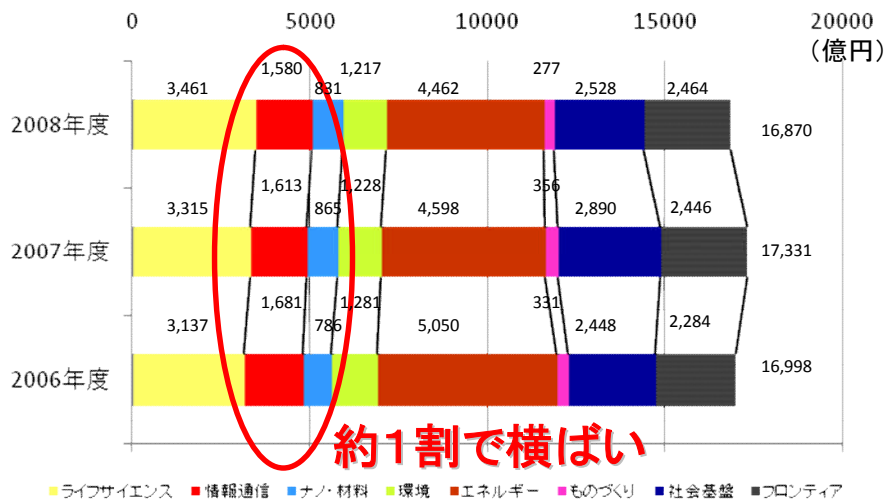


研究開発の実用化に向けた課題

平成 23 年 1 月 27 日
総務省 情報通信国際戦略局 技術政策課
竹 内 芳 明

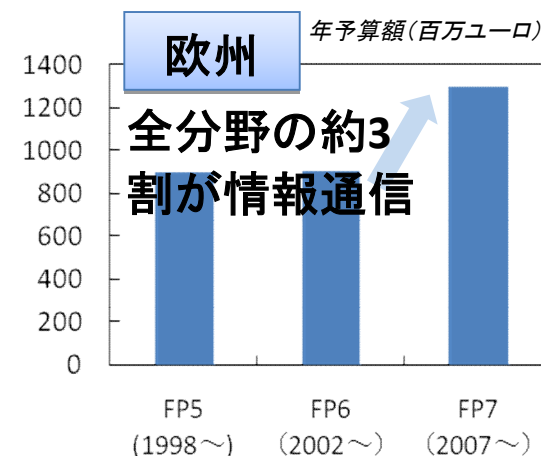
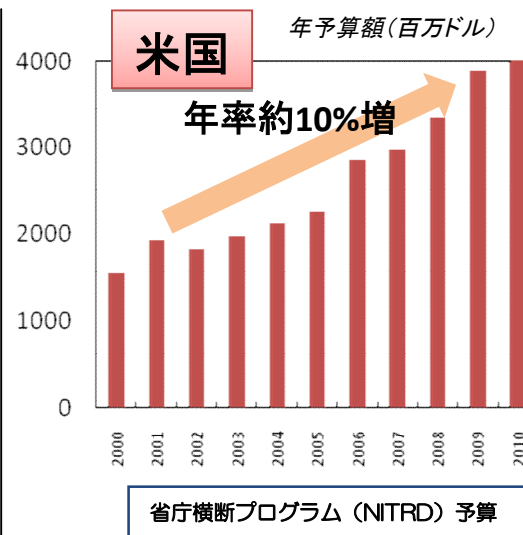
情報通信分野の研究開発の現状

我が国のICT分野の研究開発政府予算額



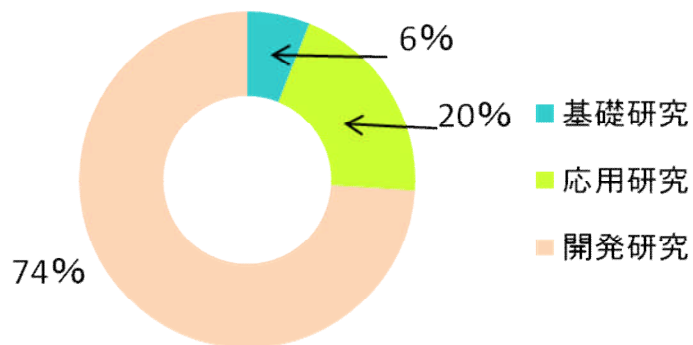
(内閣府:平成21年度科学技術関係予算案の概要について)

諸外国のICT分野の研究開発政府予算額



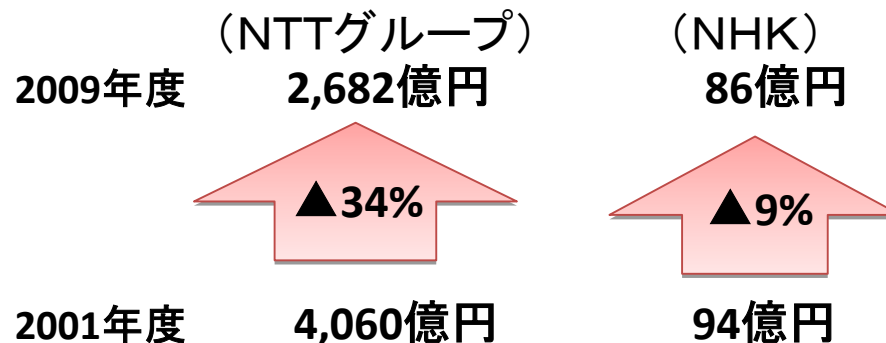
欧州連合の研究支援プログラムであるフレームワーク計画 (FP) における情報通信分野予算

民間は基礎研究より開発研究を重視



(平成21年 科学技術研究調査 総務省)

NTT/NHKの研究開発費の減少





新世代通信網テストベッド（JGN-X）構築事業



JGN-X: Japan Gigabit Network-eXtreme

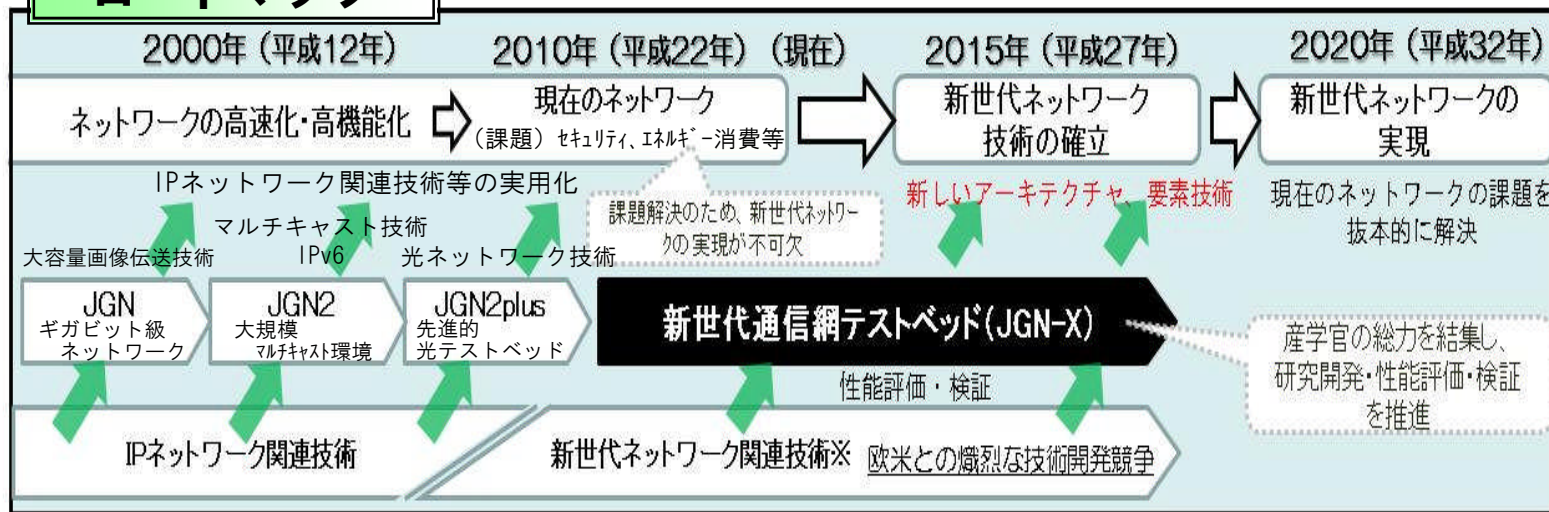
事業概要

- (1) セキュリティ、エネルギー消費等の現在のネットワークが抱える問題を抜本的に解決する「新世代ネットワーク」の実現に不可欠な要素技術を統合した大規模な試験ネットワークを構築し、実証・評価を通じ、新世代ネットワーク基盤技術を確立する。
〔 新世代ネットワークの実現に向けて欧米等でも国を挙げてテストベッド構築や研究開発を強力に推進中。試験ネットワークにおいて実証・評価した技術でなければ、国際標準化に実質的な参画ができず、ネットワークの中核技術の国際競争で大幅に遅れをとる恐れ。 〕
- (2) 試験ネットワークを技術評価環境(テストベッド)として広く産学官に開放し、新しいアプリケーションのタイムリーな開発を促進。海外の研究機関(米国、欧州、インド、豪州等)との接続により、戦略的な国際共同研究・連携を推進する。
- (3) 2015年末までに新世代ネットワークの実用化の目途をつけ、2020年以降のICTの国際競争力を左右するネットワーク中核技術を確立し、研究開発・標準化競争で主導権を確保し、経済成長を実現する。

(参考) 米国(NSF)や欧州(FP7)においても、2015年頃の技術確立に向けて総力を挙げて研究開発を強力に推進中。
(欧米では年間100～150億円規模でテストベッド構築及び研究プロジェクトを推進中。)

ロードマップ

【23年度予算予定額】32.09億円



海外との研究協力や国際展開・国際標準化を推進



研究開発の実用化に向けた課題

1. 国際競争力強化に向けて「中長期的に取り組むべき課題」と当面の課題解決のための「スピード感のある対応」の両立
2. 事業化や普及といった「出口戦略」を明確にした知財マネジメント
3. 産学官の役割の明確化と国による支援措置
4. 状況変化へのしなやかな対応



- 研究段階から国際連携・協調体制の強化
- 「知財マネジメント」(コア技術の知的財産の戦略的マネジメント、知財確保に対する支援)
- 新産業創出のための中小企業・若手の活用(競争的資金の活用、マッチングファンドによる支援)
- 世界で戦える「人材の育成」(研究開発拠点の活用、知識の連結)